

エッジプラットフォームコンソーシアム(EPFC)が
SIP フィジカルの出口機関であるエッジコンソーシアムを編入
～～～ 新「エッジプラットフォームコンソーシアム」として再スタート ～～～

一般社団法人エッジプラットフォームコンソーシアム（理事長：東京工業大学 学長 益 一哉）(以下 EPFC という)は、内閣府が実施する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期/フィジカル空間データ処理基盤」(以下 SIP フィジカルという)(管理人：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下 NEDO という。))が研究開発した成果を広く社会に普及させるために、社会実装と事業化を目指した出口機関として構想したエッジコンソーシアムという組織を編入することで、新「エッジプラットフォームコンソーシアム」として4月1日より再スタートしました。

■ 新 EPFC 設立の背景と現状の課題

EPFC は 2017 年 6 月に任意団体として発足し、2019 年 5 月に一般社団法人に移行して以来、エッジを中心とした IoT プラットフォーム構築へ向けて、各種セミナー、勉強会、シンポジウムの開催、IoT 関連団体との連携活動や実証実験を含めたビジネス・技術両面の活動をワーキンググループ主体で進めて参りました。現在、会員数は 56 機関で運営しております。しかし、エッジを中心とした IoT のプラットフォーム化の関心度と期待度は高まってきましたが、実際の実用化、事業化といったビジネスでは、投資対効果や業界囲い込み型のシステムが主流であり、幅広く社会実装させるためには参入障壁が高く、十分とは言えないのが現状です。とりわけ、中小企業においては、大企業に比較して、IoT 導入の遅れが顕著な状況にあると言えます。

一方、SIP フィジカルは CPS(Cyber Physical System)を用いた Society5.0 の実現に向けてサイバー空間とフィジカル空間を連携させることができるエッジに重点を置いたエッジプラットフォーム(以下「エッジ PF」という)を開発し、社会実装することにより、フィジカル空間処理のコストと開発期間を大幅に削減し、かつ中小・ベンチャー企業を含む産業界を活性化していく研究開発を推進しています。さらに、研究開発した成果を普及させるために社会実装・事業化を目指した出口機関としてエッジコンソーシアムという組織をつくる構想を進めてきました。

これら二つの組織の目指す目的と方向感に関しては共通点が多く、また、乱立気味のコンソーシアムをさらに新規に設立するのは望ましくないという認識のもと、これら組織を統合して、ひとつの組織として運営することのメリットが多いという判断になりました。そこで、SIP フィジカルからの要請により、既存の EPFC に SIP フィジカルの各事業者が加わる形で新組織として再スタートすることにしました。

■ 新 EPFC の活動方針

会費などの基本的なコンソーシアムとしてのフレームワークは変更ありません。また、従来から実施していた各種セミナー、勉強会、シンポジウムの開催やワーキンググループ主体で進めてきた調査、実証実験などの各種活動はそのまま継続します。さらに、SIP フィジカルの研究開発を推進している事業者が新 EPFC



内に各部会を作って、EPFC の活動に加わることとなります。新設した事業開発部会は各事業者が SIP フィジカルで開発した成果を社会実装するために活動するとともに、SIP フィジカルの期間終了後(2023 年 3 月)も開発を継続します。同じく新設したエッジ・ソリューション推進普及部会は事業開発部会、ワーキンググループ活動部会と連携して中小企業などのエンドユーザーの開拓のために、ビジネス・マッチング活動を推進していきます。

本コンソーシアムは、SIP フィジカルが開発した開発コストを 1/10 以下、IoT 構築時間を 1/5 以下に削減できるエッジ PF を使用する権利を得ることで、中小企業でエッジ側プラットフォーム導入の障壁となっていたコスト・パフォーマンスの課題を解消できることから、SIP フィジカルの成果であるエッジ PF を、中小・ベンチャー企業へ積極的に展開してまいります。また、本コンソーシアムのホームページにポータルサイトとしてエッジプラットフォームストアを開設し、ここにドキュメンテーション、エッジ PF のユーザーマニュアル、実証実験で得た知見をまとめたアプリケーションノート、開発プログラムなどを掲載することで、誰でも使えるプラットフォームとして整備してまいります。

本コンソーシアムは、現場の課題を持つニーズ側と課題解決のための技術を持つシーズ側が協働してエッジシステムの実現を容易化するプラットフォームの構築を目指します。エッジプラットフォームを活用することにより、用途に適したエッジシステムを構成するコンポーネントの選択とシステムの構築が容易になります。これにより、シーズ側は、エッジシステムを構成する技術の横展開が容易となり、ニーズ側は、課題解決に必要な IoT システムの構築・導入が容易となります。結果として、人が豊かに暮らせる社会の構築を目指したデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進できると考えています。

本コンソーシアムは、各種既存の国内外の IoT 関連コンソーシアム、団体とも協調するとともに、産学による英知を集めてエッジ側の技術活動を最大限に生かし、新市場形成を加速する一翼を担っていきたいと考えています。会員数についても現在の 56 機関から今年度中には 100 機関に増やして、会員間の交流を活発化させる予定です。また、本年度は SIP フィジカルの開発活動と並行して普及活動を推進していきますが、来年度からは自立したコンソーシアムとして活動していく予定です。

私どもは SIP フィジカルの成果を社会実装することを最大の使命として、活動を継続・活性化させてまいります。引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

■ 本件に関する問い合わせ先

エッジプラットフォームコンソーシアム事務局

株式会社デバイス&システム・プラットフォーム開発センター内

神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番地 ソリッドスクエア東館 10 階

TEL: 044-201-9030 FAX: 044-201-9031

E-Mail: staff@epfc.jp、<https://www.epfc.jp>

(注) 本内容は内閣府、NEDO のホームページともリンクしています。